

NLP、そして厚木基地の今

厚木基地周辺の住民は、日ごろの騒音はもとより、空母艦載機による夜間連続離着陸訓練(NLP※)によって多大な騒音被害を受けてきました。最近では、5月にきゅうきょF/A-18ホーネットなど騒音被害の大きい機種によるNLPが厚木基地で実施されました。

また、10月に硫黄島で実施された離着陸訓練(FCLP※)では、硫黄島で所要の訓練ができない場合には厚木基地で実施すると公表されました。

今号では、5月と10月に実施された離着陸訓練についてお知らせするとともに、厚木基地を取り巻く最近の状況と市の取り組みをお伝えします。

※[NLP(Night Landing Practice)] [FCLP(Field Carrier Landing Practice)]

滑走路の一部を空母の甲板に見立て、そこを基点に離着陸を繰り返す訓練が「FCLP」で、夜間に実施されるものが「NLP」。



空母の出入港と空母艦載機の飛来

わたしたち大和市民は、日ごろから航空機騒音の被害を受けています。とりわけ大きな騒音被害をもたらすのが、横須賀を事実上の母港としている米空母キティホークの艦載機です。

同艦載機は、多くの場合、キティホークが横須賀へ入港する数日前に厚木基地へ飛来します。そして、同空母が出港する直前に、主に硫黄島でNLPを含む離着陸訓練を実施し、洋上に出た空母へと向かいます。

米海軍は、空母に艦載機を着艦させるには高度な技術を要するとし、地上の滑走路の一部を空母の甲板に見立てた離着陸訓練が必要であるとしています。このNLPについては、事前に国や米軍から実施期間などの予定が公表されます。

またNLPだけでなく、空母が横須賀に來ている間には、厚木基地で艦載機の離陸や着陸が繰り返されます。こうした離着陸に伴う騒音も、市民生活に多大な影響を与えています。



米空母キティホーク

厚木基地を取り巻く現況

県や周辺市と連携して要請

今年5月のNLPでは、当初は低騒音機とされる機種により、5月8日から11日までの期間、厚木基地で訓練を行うとされていきました。

ところが、5月10日、きゅうきょ硫黄島が天候不良などのため所要の訓練が実施できなかったとして、厚木基地においてF/A-18ホーネットなどでNLPを実施すると防衛施設庁が公表しました。これを受け、大木大和市長はただちに厚木基地へ出向き、在日米海軍厚木航空施設司令官に対して、NLP

の中止を強く要請しました。

また大木市長は、11日に防衛省、防衛施設庁、外務省を訪れ、14日には在日米海軍司令官と横浜防衛施設局長に直接面会し、NLPの中止を要請しました。21日には、大木市長を含む厚木基地周辺7市長と県知事が連名で、外務大臣、防衛大臣、防衛施設庁長官に対し、今回のNLPは容認できるものではなく、今後は空母艦載機の移駐を確実に実現することや、騒音の軽減に最大限努力することを強く求めました。



5月14日に大和スポーツセンターの屋上で県知事、周辺市の市長とともに厚木基地のNLPを確認する大木市長(左から2番目)

10月の離着陸訓練は硫黄島で実施

5月のNLPが終了し、空母キティホークは同月23日に横須賀を出港、約4か月後の9月21日に再び横須賀へ入港しました。

10月5日、国や米軍より、「12日から18日までの期間、すべての離着陸訓練を硫黄島で実施する」とした内容が公表されました。低騒音機とされる機種を含めた全機種が硫黄島で訓練を実施

するとの公表は、平成13年9月以来のことです。

しかしこの公表には、天候などの事情によっては厚木基地などで訓練が実施されることもありました。このため大木市長は、県や周辺市と共に日米の関係機関に対し、いかなる場合もすべての訓練を硫黄島で実施するよう要請しました。

10月17日、在日米海軍と国から、すべての離着陸訓練が硫黄島で終了したと発表され、同月21日に空母キティホークは横須賀を出港しました。



硫黄島